

研究テーマ	[Ⅱ 材料などのよさや可能性を豊かに感じ取る造形教育を考える] 思考・判断し、表現する力を育てる図画工作科学習指導の展開 ～第4学年「ねん土にまほうをかけたら」における、材料や用具、 友人と関わりながらつくりだす活動を通して～
-------	--

坂東市立逆井山小学校 教諭 飯田 政子

## 1 研究テーマについて

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成20年8月）（以下、解説と表す）の目標には、「つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培う。」と示されている。また、中央教育審議会答申（平成20年1月）（以下、答申と表す）において、図画工作・美術科の改善の基本方針及び改善の具体的事項として、「創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることを重視する。」と示されている。

これらのことから、思考・判断し、表現する力は、自分の思いを形や色で表したり、よさや美しさを感じ取ったりする造形的な創造活動の基礎的な能力であり、表現及び鑑賞の活動を通して、形や色、イメージなどを活用できるよう指導を工夫することで育てることができる考える。

形や色、イメージなどを活用して活動するためには、児童が材料や用具、友人とかかわりながらつくりだす活動を通して、材料などのよさや可能性を豊かに感じ取りながら、自分の思いを工夫して表すことができる指導を充実させることが大切である考える。

## 2 実践例

### (1) 題材名 ねん土にまほうをかけたら

### (2) 目標

材料や用具、友人と関わり、いろいろな表し方を試しながら、表し方のよさや面白さなど感じ取ったことを基に自分のつくりたいもののイメージを膨らませ、形や組合せなどを工夫して表す。

### (3) 題材について

本題材は、手や体全体を十分に働かせて粘土や用具を使い、友人と関わりながら、形や組合せなどのよさや面白さを感じ取り、想像した楽しい世界をつくるものである。材料としては、土粘土(以下「粘土」という。)を扱い、手や体全体を十分に働かせ、感触を確かめながら立体表現を楽しむ題材である。また、身近にある材料を用具として使い、表したいものに合わせて工夫する体験を深める。いろいろな表し方を試したり友人と関わったりしながら、材料や用具からの気づきを深め、自分のイメージを膨らませ、工夫して表すことができる題材である考える。

#### ① 材料や用具に十分に関わり、造形的な特徴を捉えて試す学習活動の工夫

導入の第一段階として、粘土との関わりを重視し、用具を使わずに試すことで、粘土の特性やよさを感じ取ることができるようにする。床の上で活動することで、児童が体全体を使って粘土に十分に関わることができる考える。扱いやすい軟らかさに練った粘土を一人2 kg、自由に使うことのできる粘土を共用粘土として用意する。自

分の感覚を通して、粘土の特性やよさを感じ取ることができるように、たくさんの表し方を試す時間を確保する。つくり、つくりかえ、つくり続ける活動を通して、造形的な特徴を捉えイメージを膨らませることをねらいとする。

導入の第二段階として、身近にある網や縄、糸や竹串等を用具として使い、試しながら、表した形や組合せなどについての気付きを深めることができるようにする。同じ用具でも、使い方を変えることで、新しい表し方ができることに気付くようにする。

新しい形から発想してつくったり次々と形を変化させたりするなど、試しながら自分なりに工夫した表し方に名前を付けたり紹介したりすることで、つくる喜びを味わい、形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながらつくりだすことができるようにする。粘土や用具に関わる行為から得られた感覚を大切に、粘土の感触を体全体を使って十分に試してから用具を使って試す時間を設定することで、手や体全体を使って表すよさと用具を使って表すよさを十分に体験させる。用具コーナーや共用粘土コーナーを設置し、児童が必要に応じて自由に行き来できるようにする。

さらに、試してみようカードとしてすごろくゲームのような形式で活動の順序や表し方のキーワードを示し、児童の主体的な活動を促す。

#### ② 自分の活動を振り返り、イメージを膨らませるための学習カードの工夫

児童が自分の活動に見通しをもち、活動を振り返って表したい思いを確認したり、イメージを膨らませたりすることができるように、次ページ資料2に示すような学習カードを工夫し活用する。いろいろな表し方に出会い自分のイメージを膨らませ、表現を追求する過程で、形や組合せなどの気付きを自分の言葉で記述させる。冊子化し、製作の過程を記録した写真や友人からのメッセージの書かれた付箋を貼付するページを設定する。児童の思考の流れに沿って学習カードを工夫し活用することで、児童が形や組合せなどの〔共通事項〕を視点に、自分の活動を振り返り、イメージを膨らませることができるようにする。さらに、教師が児童一人一人の思いや願いを把握し、思考・判断し、表現する力を育てるための適切な指導・助言に生かす。

#### ③ 友人と関わる活動を位置付けた学習過程の工夫

友人の表し方からよさや面白さを感じ取ることができるように、題材全体を通して、友人と関わる活動を位置付ける。自分にはない表し方に出会うことで、形やその組合せによるよさや面白さに気付き、考えを深めることができるようにする。

第1次の活動では、「まほう大集合コーナー」を設置し、友人が試した表し方を全員がいつでも自由に鑑賞できるようにする。毎時間の活動の終わりには、全体やグループで鑑賞し、よさや面白さについて話し合う。気付いたことを付箋に書いて、友人と交換する。形や組合せなどの感じがどう生かされているのかを話し合う活動を通して新たな気付きを促し、その後の発想につなげることができるようにする。

#### ④ 話し合い活動を充実させた鑑賞会の設定

第3次には、鑑賞会として完成した作品を紹介する場を設定する。見て感じたことや友人の話聞いて気付いたことについてそれぞれに色分けした付箋に書き交換し合い、話し合う。自他の作品の形や組合せなどのよさや面白さを捉え、全体やグループで話し合うことで、児童が自分の考えを深めたり新たな視点に気付いたりすることができるようにする。

#### (4) 評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・粘土や用具に進んで関わり、つくったり見たりする活動を楽しもうとしている。	・いろいろな表し方を試しながら、自分のつくりたい形や組合せなどを思い付いている。 ・自分のイメージに沿って「まほうのねん土で〇〇ランド」の形や組合せなどを考えている。	・粘土や用具、友人の表し方のよさや面白さなど感じ取ったことを基に、形や組合せなど、表し方を工夫している。	・自他の表し方の工夫や友人の作品への思いに気付き、よさや面白さを感じ取っている。

#### (5) 指導と評価の計画（5時間扱い）

※○印は時数，◎は本時

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ◎	・粘土に触れ、いろいろな表し方を試す。 ・手や指、掌などを使って試す。 ・用具を使って試す。 ② ・表し方に名前を付ける。 ・試した表し方を紹介し合う。	・粘土や用具に進んで関わり、つくったり見たりする活動を楽しもうとしている。 関【観察】 ・自分の感覚や材料や用具、友人と関わる活動を通して形や組合せなどの感じを捉え、自分のつくりたい形や組合せなどを思い付いている。 想【観察、対話、学習カード】
第2次 ◎	・粘土のよさや表し方の面白さが生かせるように工夫して「まほうのねん土で〇〇ランド」をつくる。 ・試したことや気付いたことを生かして用具を使い工夫して表す。	・粘土や用具の特性を生かした形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながら、自分のイメージを膨らませている。 想【観察、対話】 ・自分のイメージに沿って、「まほうのねん土で〇〇ランド」の形や組合せなどを考えている。 想【観察、対話、作品】 ・粘土や用具、友人の表し方のよさや面白さなど感じ取ったことを基に形や組合せなど表し方を工夫している。 技【観察、作品】
第3次 ①	・自他の作品のよさや面白さを感じ取る。 ・友人と話し合いながら活動を振り返り、学習カードに感想を書く。	・自他の表し方の工夫や友人の作品への思いに気付き、形や組合せなどの感じを捉え、よさや面白さを感じ取っている。 鑑【観察、学習カード】

#### (6) 本時の展開

##### ① 目標

粘土や用具、友人に関わり、いろいろな表し方を試しながら、自分のつくりたいものの形や組合せなどを思い付くことができる。

##### ② 準備・資料

教師…粘土、粘土板、シート、紙皿、油性ペン、学習カード、バケツ、糸、貝殻等  
児童…ぞうきん、筆記用具、へら、つまようじ、割り箸、フォーク、スプーン、クッキー等の抜き型、網等

③ 展開 (第1・2時)

学習活動・内容	・指導上の留意点, ◎評価,
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ねん土にまほうをかけよう。</div> <p>2 粘土の扱いに慣れ表し方を試す。</p> <p>○ 手や指, 掌を使って</p> <p>(1) 形をつくるまほう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸める, ちぎる, ひねる等</li> </ul> <p>(2) 高くするまほう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸ばす, 積む, 並べる等</li> </ul> <p>(3) 自分で考えたまほう</p> <p>○ 用具を使って</p> <p>(1) 薄くするまほう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切る, 削る, のす等</li> </ul> <p>(2) 模様をつけるまほう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・押す, かく等</li> </ul> <p>(3) 自分で考えたまほう</p> <p>○ 組み合わせて</p> <p>〈体育館の学習環境図〉</p> <p>3 友人の表し方のよさや面白さについて話し合い, 付箋に書いて交換する。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>5 後片付けをする。</p>	<p>・粘土でつくった面白い表し方を提示することで, 本時の活動への意欲を喚起する。</p> <p>・粘土の基本的な扱い方を確認し, 前半は手や指など体全体を使って試すようにさせ, 楽しみながら扱いに慣れさせる。</p> <p>・後半はいろいろな用具の使い方を例示し, 形や組合せなどのよさや面白さ, 工夫についての視点を捉えさせる。</p> <p>・何度もつくり直したり, 用具を試したりしてもよいことを伝え, 主体的な活動を促す。</p> <p>・体全体を使って多様な表し方を安全に試せるように, 用具の使い方や活動場所について助言する。</p> <p>関 粘土や用具に進んで関わり, つくったり見たりする活動を楽しもうとしている。(観察)</p> <p>・活動が滞りがちな児童には, 友人が使った用具を試したり, 友人と一緒につくったりするよう助言する。</p> <p>・新たな発想や表し方に向かう姿勢を認め, 紹介する。</p> <p>・用具を友人と交換してもよいことを告げ, 友人と関わりながら, 友人の表し方の形や組合せなどのよさや面白さを感じ取り, たくさん試すことができるようにする。</p> <p>・各自の表し方に名前を付けて, まほう大集合コーナーに展示し, 自由に見たり話し合ったりして, 形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながら活動できるようにする。</p> <p>想 粘土や用具, 友人に関わり, いろいろな表し方を試しながら, 自分のつくりたい形や組合せなどを思い付いている。(観察, 対話, 学習カード)</p> <p>・表したいものが思い浮かばない児童には, まほう大集合コーナーの作品を参考に, 形や組合せなどが面白く感じるものを試してみるよう助言する。</p> <p>・試したものをグループごとに持ち寄ることが容易にできるように紙皿を活用する。</p> <p>・友人の工夫している点や形や組合せなどのよさや面白さを感じられる表し方について付箋に記入し話し合うことで, 自分のこれからの表現や次時の学習の手掛かりとする。</p> <p>・本時の学習の成果を認め, 次時の学習に生かすことができるようにする。</p> <p>・粘土の保管や用具の安全な片付けの仕方について指導する。</p>

### 3 成果と課題

#### (1) 材料や用具に十分にに関わり，造形的な特徴を捉えて試す学習活動の工夫

導入の第一段階に行った，粘土に触れ試す学習では，大量の粘土に向き合い，体全体を使って試す様子や，形の特徴を何かに見立ててつくり続ける様子が見られた。学習カードの記述からは，材料に関わる行為から得られた感覚や，粘土の手応えを確かめながら思考し，試している様子を読み取ることができた。体全体を使って床の上で力を入れて試す様子や，机の上でじっくりといろいろな角度から見ながら試す様子が見られた。また，すごろくゲームのように活動の順序を示した試してみようカードを活用したことで，いろいろな表し方を考えながら試し，粘土の特性やできた形のよさや面白さを十分に感じ取ることができていた。

第二段階では，用具コーナーや共用粘土コーナーを設置し，材料や用具を豊富に用意したことで，児童が自分の思いに合わせて粘土を使ったり，用具を自由に選んだりすることができ，思い付いたことを次々と試す様子が見られた。「まほう大集合コーナー」を設置し，自由に行き来できるようにしたことで，児童同士の交流と情報交換が行われた。資料1は網を使って粘土を押し出して形をつくることを試している様子と紙皿に「まほう」の名前を書いている様子，形の面白さから発想したまほう「未来のせいぶつ」と児童の学習カードの記述である。

#### 資料1 試す様子と紙皿に書いた「まほう」の名前，学習カードの記述



#### (2) 自分の活動を振り返り，イメージを膨らませるための学習カードの工夫

題材を通して活用した学習カードの児童の記述を資料2に示す。導入の活動についての記述からは，①のようにいろいろ試しながら充実感を味わったり，②のように次時への意欲が高まったりしている様子が分かる。製作の活動についての記述からは，③のように一つの用具で二通りの表し方を思い付き試したことが分かる。授業のまとめについての記述からは，④のように友人と認め合うことができ，充実感をもつことができた様子が分かる。

#### 資料2 学習カードの記述

##### 導入の活動について

- ・ぐうぜんおもしろいもようができた。ねん土でなら何でもつくれるんだと思った。①
- ・もつとちがう用具をさがしたい。②

##### 製作の活動について

- ・もようを付けるだけでなく，ぬき型みたいに粘土を切って使う方法を発明した。③

- ・ねん土は水でやわらかくなるのが分かった。

##### 授業のまとめについて

- ・Bさんが，わたしが使っていた用具がよかったと書いてくれて，うれしかった。
- ・説明していないことを分かってくれたのが，うれしかった。④

他にも、材料や用具に自分から関わったことでいろいろな表し方に出会いイメージを膨らませ、形や組合せなどのよさや面白さに気付いたことが分かる記述が多く見られた。また、学習カードに貼付した写真や付箋から、次時の課題をもったり意欲を高めたりする児童が多く見られた。

### (3) 友人と関わる活動を位置付けた学習過程の工夫

導入の段階では、次ページ資料3のように「まほう大集合コーナー」で友人の表し方を鑑賞する時間を設けた。学習カードの記述①のように、形から何かに見立て、表し方のよさに気付いたり、②のように友人の表し方のよさを取り入れ、新しい表し方を考えたりしていたことが分かる。また、毎時間の活動の終わりに、全体やグループで形や組合せなどのよさや面白さを話し合う活動を位置付けたことで、新たな気づきを生み、その後の発想や構想につなげることができたことが学習カードや付箋の記述から読み取れた。製作の段階でも、友人と関わることを通して気付いたことを生かし、自分のイメージを膨らませ、用具や表現方法を選択する姿が多く見られた。

### (4) 話し合い活動を充実させた鑑賞会の設定

鑑賞会では、第一段階として、見て感じたことを水色の付箋に書いて交換し、第二段階として作品の紹介をし合い、友人の話聞いて分かったことや感じたことを桃色の付箋に書き交換し資料4のように話し合った。友人の話聞くことにより見ただけでは分からない友人の思いや工夫に気づき、新たな視点をもつことができたことが書かれた記述から読み取ることができた。

以上のように材料や用具に十分にに関わり、造形的な特徴を捉える場を設定したことで、材料や用具の特性を捉え、よさや可能性を豊かに感じ取りながら、創意工夫して表すことができた。また、学習カードを活用し、自分の行為や感じたことを言葉で表すことにより、自分のイメージを膨らませることができた。さらに、友人と関わる活動を位置付けた鑑賞会を充実させたりしたことで、形や組合せ、イメージを言葉と結び付けながら共感的に作品のよさや面白さを感じ取ることができた。

今後は、他教科との関連を図りながら、児童が身の回りの生活の中からよさや面白さを感じ取り、友人と共有することのできる学習指導を工夫していきたいと考える。

〈引用文献〉

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」平成20年8月

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」平成20年1月

### 資料3 「まほう大集合コーナー」の様子と学習カードの記述



- ・金網を使って、メロンパンみたいにできるのがおもしろいまほうでした。①
- ・Cさんのふしぎなきのこを見て、私はちがう用具でどくきのこをつくってみました。②

### 資料4 鑑賞会の様子

